

令和7年8月22日

恵庭市議会議長 川原 光男様

会派名 自由民主党議員団翡翠会 代表者氏名 小橋 薫



政務活動費研究研修結果報告書

恵庭市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、当派の令和7年度研究研修結果について、次のとおり報告します。

記

1 研究研修期間 令和7年7月22日から令和7年7月24日まで(3日間)

2 内容

研究研修名	7月23日静岡県藤枝市 「人財育成の取り組みについて」  7月23日静岡県島田市 「eスポーツを活用した介護予防事業について」  7月24日愛知県豊田市 「孤独・孤立対策推進事業について」
研究研修会	7月23日静岡県藤枝市役所 7月23日静岡県島田市役所 7月24日愛知県豊田市役所
参議人数	*視察研修参加議員名 宮 利徳、川股 洋一、市川 慎二、前田 孝雄、石井 美季、 吉永 孝之 計6名
研修内容	各地での研修内容については別紙のとおり

(研究研修資料/別紙のとおり)



**行政視察報告書**  
**( 会 派 名: 自 民 党 翡 翠 会 )**

**\* 報告者**

委員長名 (会派代表者名) ・ 政務調査会長 吉永孝之

**\* 視察研修参加議員名**

宮 利徳、川股 洋一、市川 慎二、前田 孝雄、石井 美季、  
吉永 孝之 計 6 名

**\* 視察研修日程**

令和 7 年 7 月 22 日 (火) ～ 7 月 24 日 (木) の 2 泊 3 日

7 月 22 日 (火) 移動日

7 月 23 日 (水) AM 静岡県藤枝市  
「人財育成の取り組みについて」

7 月 23 日 (水) PM 静岡県島田市  
「e スポーツを活用した介護予防事業について」

7 月 24 日 (木) 愛知県豊田市  
「孤独・孤立対策推進事業について」

視察研修先 静岡県藤枝市 藤枝市役所

視察研修項目：人財育成の取り組みについて

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*

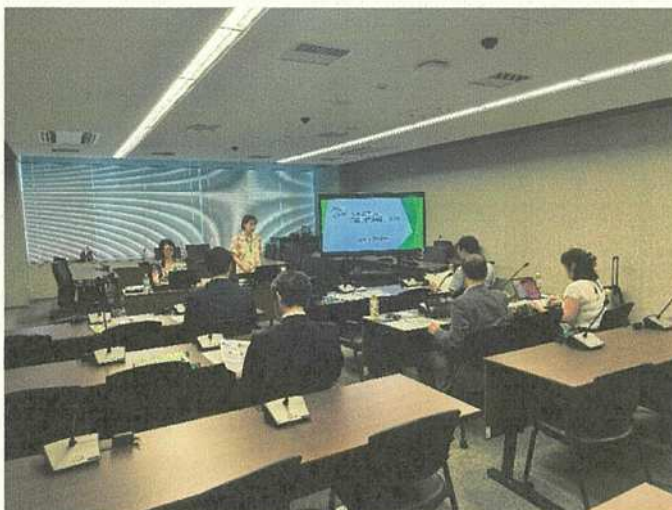
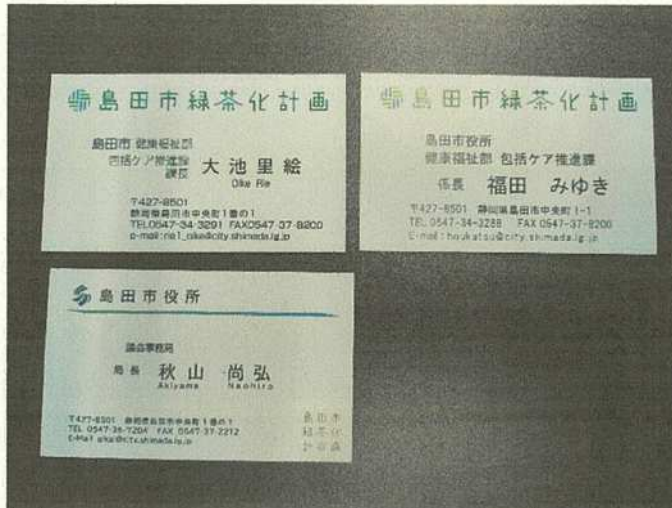


視察研修先 静岡県島田市 島田役所

視察研修項目：高齢者eスポーツ事業について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*



視察研修先 愛知県豊田市 豊田市役所

視察研修項目：孤独・孤立対策推進事業について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*



視察研修先・静岡県藤枝市

視察研修項目・人財育成の取り組みについて

報告者・宮 利徳

**\* 議員個々の考察と見解 \***

ヒトづくりこそまちづくり～新たな時代の人の育みに取り組む～

講師：人材育成センター長 山梨秀樹（静岡県立大学客員教授）

総務部人材育成センター人材育成室 主幹 神谷恵理

●背景

- ・市長の考え方を反映 元静岡県庁の職員 剣道の達人
- ・H15 静岡国体 多くの人と関わり仕事を進める大切さを痛感
- ・人口減少（若年層）により優秀な職員の確保が困難（特に技術職）
- ・会計年度任用職員が 33%（以前は 50%）全職員 1600 人 職員費の増加
- ・経常収支比率が 95%
- ・限られた職員をどう育て、どう活かし、どう地域の将来につなげるか  
（中長期の視点での人材育成）

●基本的な考え方

- ・育成のコンセプトは職員の士気を上げる、絶対に下げない
- ・そのために組織はどうすべき？ 中長期的な体系を考える シンプルに
- ・育成は藤枝市の経営戦力そのもの 自治体経営は総力戦
- ・重要なのは熱意や目の輝き（成果指標に表せない部分）
- ・職員を「人財（宝）」と考え、育成を市政の主要戦略に位置づけ
- ・職員の人生設計に寄り添い、長期的なキャリア形成を支援
- ・人に寄り添う経営改革とは？
- ・マズローの欲求段階説 自尊・尊厳の欲求、自己実現の欲求を満たす

●基本的な考え方

- ・育成のコンセプトは職員の士気を上げる、絶対に下げない
- ・そのために組織はどうすべき？ 中長期的な体系を考える シンプルに
- ・育成は藤枝市の経営戦力そのもの 自治体経営は総力戦
- ・重要なのは熱意や目の輝き（成果指標に表せない部分）
- ・職員を「人財（宝）」と考え、育成を市政の主要戦略に位置づけ
- ・職員の人生設計に寄り添い、長期的なキャリア形成を支援
- ・人に寄り添う経営改革とは？
- ・マズローの欲求段階説 自尊・尊厳の欲求、自己実現の欲求を満たす

●具体的な取り組み

・早くから（若い職員）活躍の場を提供し、職員がやりがいを持って日々取り組める環境を整備 「新公共経営（若手）プロジェクトチーム」

・予算の7割近くが若手職員の提案

・グローバル人材の活躍（翻訳や通訳）

・女性活躍推進会議（フジエヌ）働きやすい環境づくり

健康増進専門監、職員の保健室、働く女性の心と体の応援ミーティング

・どうキャリアを形成するか？

・入庁後概ね10年で3つの部門を経験（窓口、管理、事業）

→自分の特性を知る（キャリアのデザイン）

→複数の手上げ制で自らキャリアを積む

（人事異動に最大限配慮） （キャリアサポーター制度の創設）

・職員寺子屋（先輩・専門職員が講義を行う）

・職員研修道場（外部研修）

・大学での講義（市職員が大学で講義を行う）大学生に仕事を説明する

→R5 131名、R6 111名が登壇

・育成（人が育てる）ではなく育み（自分で育つ）

・組織全体で進めるOJT（新規職員のメンター、マンツーマン）の推進

・今後の課題

・若手職員のキャリア観の変化への対応

・デジタルに強い職員の育成

・専門職を中心とした優秀な人材の確保

・事業のスクラップ&ビルド

・地域貢献活動を行う兼業許可基準の明確化

【所見】

人材育成に力を入れ取り組むこととした背景は恵庭市を含む多くの自治体にも当てはまり、どの自治体でも同様の取り組みを行う必要があると感じた。

その中で特に若手職員が活躍できる機会を作る仕組みづくりにおいては大変参考になることが多かった。

しかしながら議会や議員として行政の職員育成についてどのような形で要望し、反映させていくのか、その手段について結論に至っていないため、今後検討していきたい。

藤枝市との職員交流（和木町とは実施している）も有効ではないかと感じた。

視察研修先・ 静岡県島田市
視察研修項目・ eスポーツを活用した介護予防事業について
報告者・宮 利徳
<p>「eスポーツを活用した介護予防事業について」</p> <p>講師：健康福祉部 包括ケア推進課 課長 大池 里絵 係長 福田 みゆき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ eスポーツとは エレクトロニックスポーツ</li> <li>・ eスポーツを活用して 通いの場の活性化 コミュニティの向上 社会参加 生きがづくり 背景</li> <li>・ 高齢者、要介護者数の増加</li> <li>・ 誰もが健やかで幸せに暮らせるまち パワーリハビリ教室 しまトレ</li> <li>・ 認知症の増加 →R3 から eスポーツを活用した介護予防事業を実施 具体的な事業</li> <li>・ eスポーツ体験会</li> <li>・ eスポーツ体験教室（週1回 全21回）</li> <li>【実施ゲーム】太鼓の達人 グランツーリスモ ストリートファイター ぷよぷよテトリス</li> <li>・ eスポーツルームの開放</li> <li>・ サポート寺子屋（知識を持った人材の育成） ・ 出前体験会</li> <li>・ 市民交流大会（今年度実施予定） 普及啓発、多世代交流の場 事業費 3,496千円 （委託料、ソフト、備品購入） ・ 風営法について ゲームセンターではない事業 毎日片付ける、3日以上同じゲームをやらない等の対策</li> <li>・ 許諾について年度ごとに許諾が必要 メーカーごとの対応 報告書や利用回数の 制限、対戦方式を取り入れる</li> <li>・ R5年度から事業化 R6年度拡充</li> <li>・ 参加率向上のために人気のゲームを採用（太鼓の達人）ルームの開放で気軽に触れ られる</li> <li>・ デジタル機器への抵抗感が課題だが、一度触れると受け入れられるため、まず一度 触れてもらう</li> <li>・ 効果測定、評価指標 出前体験会の回数、体験教室の受講者数 認知症への直接的な 効果については科学的な根拠がなく、生きがづくり</li> <li>・ 抵抗感 高齢者の介護予防を切り口に 様々な機会をとらえて対面で広報</li> <li>・ 新しいものを体験することがメリット</li> </ul>

視察研修先・ 愛知県豊田市

視察研修項目・ 孤独・ 孤立対策推進事業について

報告者・ 宮 利徳

「孤独・ 孤立対策推進事業について」

講師：福祉部 よりそい支援課 課長 岡本 裕之

主査 宮口 顕汰

- ・ 豊田市 孤独・ 孤立支援より以前から地域共生社会を目指している
- ・ 地域共生社会推進全国サミットでとよた宣言
- ・ 「孤独」は主観的概念、「ひとりぼっち」と感じている状態
- ・ 「孤立」は客観的概念、社会とのつながりや助けがない、少ない
- ・ 単身世帯の増加、働き方の多様化、インターネットの普及などの要因
- ・ 国の調査では高齢者のみではなく 20 代～50 代が孤独を感じている実態
- ・ 国では孤独・ 孤立対策推進法が成立
- ・ 重層的支援体制推進事業が対策する前のフェーズでの予防的な取り組みが必要

● 予防に関する具体的な取り組み

① ボードゲーム「コドクエ」(周知啓発)

制作背景 誰でも起こり得るという意識を醸成、つながりの大切さを伝えるのが目的

② イベント「空想ファクトリー」の発信(企業団体とのつながりづくり)

③ メタバース空間を活用した相談支援(孤独孤立から脱却した当事者が登壇)

④ 分かりやすい悩みごと相談先を記載したチラシの配布

● 支援に関する取り組み ・ 相談支援、参加支援、地域づくりを一体的に実施

・ 相談支援

① 包括的相談支援事業(所属の対象でない方の相談も聞き、支援機関に繋ぐ)

属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める

適切に支援機関へつなぐため、自分野以外の支援についても学ぶ機会を創出

② アウトリーチ等を通じた継続した支援事業(支援同意を得る)

③ 多機関協働事業(様々な機関が連携)

視察研修先・静岡県藤枝市
視察研修項目・人材育成の取り組みについて
報告者・川股洋一
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>視察の目的</p> <p>今回の視察は、自治体職員の人材育成に関する先進的な取り組みを静岡県藤枝市人材育成センターセンター長 山梨秀樹氏に講話を頂きました。</p> <p>特にキャリアの育成や仕事のローテーションの意義、行政における人材の在り方についてセンター長の体験に基づく内容でありました。</p> <p>講話の内容</p> <p>1. 希望部署への配属とジョブローテーションの意義について</p> <p>入庁後すぐに希望部署に配属されるとは限らないが、異動を通じて多様な業務経験を積むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 山梨センター長ご自身も、土木課、税務課、医療行政と異なる分野を数多く経験し、結果的に知識と人脈が広がった。</li> </ul> <p>2. 行政の全体像を把握する重要性について</p> <p>地方行政では、住民の複合的な要望に迅速かつ的確に対応する力が求められる。若いうちに多様な部署を経験することで、行政全体の構造や連携の仕組みを理解できる事につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 将来的に管理職や経営層として活躍するための「基盤づくり」となりえる。</li> </ul> <p>3. キャリア形成と行政の多様性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 民間では転職が一般化しているが、行政の世界でも多様な職務が存在し、キャリアを磨く場は豊富にある。</li> <li>- 希望部署に早期に配属されなくても、他分野での経験が広報や企画などの業務に活かされ事につながる。</li> </ul> <p>4. 「体幹」を身に付けるという考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 行政職員としての「体幹」とは、幅広い知識と経験に裏打ちされた対応力・判断力のことである。</li> <li>- 住民対応では、担当外の質問にも即座に理解し、適切な部署につなげる力が求められる。</li> <li>- 真摯に業務に向き合い、異動を重ねることで自信と実力が培われる事になる。</li> </ul>

## 所 感

山梨センター長の講話は、行政職員としてのキャリア形成に対する考え方を新たにすることが出来た、特に若手職員にとっては「希望部署に行けない＝不遇」ではなく、「経験の蓄積＝将来への投資」であるという前向きな考え方が素晴らしいと感じた。

ジョブローテーションの制度的意義を再認識するとともに、行政の全体像を把握することが、住民サービスの質の向上に直結するという実践的な視点は、今後の人材育成施策においても重要な課題となる。

また、「行政の体幹を鍛える」という表現は、単なる知識習得ではなく、実務を通じた総合力の養成を意味しておられ、職員一人、一人の人間力の醸成が求められる。

本視察を通じて、行政職員としてのキャリア形成における多様な可能性と、異動・経験の積み重ねがもたらす価値を深く理解することができた。

今後、恵庭市民の満足度向上のための様々な分野において、山梨センター長の講話を積極的に活かし魅力ある街づくりを目指して行きたい。

視察研修先・ 静岡県島田市
視察研修項目・ eスポーツを活用した介護予防事業について
報告者・ 川股洋一
<p>1. 目的</p> <p>高齢者の健康増進、社会参加の促進、デジタルディバイドの解消を目的として、令和5年度より「高齢者eスポーツ事業」を開始していた。</p> <p>本事業は、eスポーツを通じて高齢者の身体的・認知的機能の維持向上を図るとともに、世代間交流の機会を創出することを目的としている。</p> <p>2. 実施している内容</p> <p>eスポーツ体験会の開催（月1回）</p> <p>ゲームタイトル：ボウリング、テニス、リズムゲームなど身体動作を伴うもの、インストラクターによる操作指導と安全管理、定期的な交流イベント、高校生との合同チーム戦、地域住民との観戦会、応援企画、健康チェックとの連携、体験前後の血圧・脈拍測定認知機能テスト（簡易版）デジタルリテラシー講座、ゲーム機器の操作方法オンラインマナーと安全な利用法などがある。</p> <p>3. 成果と効果</p> <p>参加者の声として「孫と同じゲームができて嬉しい」「外出のきっかけになった」、「手足を動かすことで運動不足が解消された」、定量的成果として認知機能テストの改善傾向（参加者に向上が見られているようである。）</p> <p>地域への波及効果として、地域メディアでの紹介により関心が拡大された</p> <p>4. 課題</p> <p>機器操作への不安初回参加者には、操作に戸惑いを感じた→ 操作補助員の増員とマニュアルの簡素化を実施していた。</p> <p>参加者層の偏りがあり男性参加者が多く、女性の参加促進が課題→ 女性向けタイトルの導入と広報を工夫し継続的なモチベーション維持のためスコアランキングや表彰制度の導入を検討した。</p> <p>5. 今後の展望</p> <p>常設型eスポーツスペースの設置・地域交流センター内に常設機器を設置し、自由利用を促進したい。</p> <p>医療・福祉との連携強化・リハビリ支援としての活用可能性を検討。</p> <p>世代間交流のさらなる推進のため、地元学校との定期交流イベントの拡充や地域全体への普及として高齢者だけでなく障がいをお持ちの方や子育て世代への展開も視野に進めたい。</p>

視察研修先・ 静岡県島田市

視察研修項目・ eスポーツを活用した介護予防事業について

報告者・ 川股洋一

6. まとめとして

本事業は、高齢者の社会参加と健康維持を目的とした新たな取り組みとして、一定の成果を上げてきた。今後は、より多様な参加者のニーズに応え持続可能な事業として定着させるための体制整備が求められている。

島田市は、地域のつながりを育む「eスポーツ福祉モデル」の構築を目指し、引き続き取り組みを進めている。

視察研修先・ 愛知県豊田市

視察研修項目・ 孤独・ 孤立対策推進事業について

報告者・ 川股洋一

## 目 的

現代社会において深刻化する「孤独・ 孤立」問題に対し、自治体がどのような支援体制を進めているのかを目的とし、愛知県豊田市の先進的な取り組みを視察した。

特に、地域連携、アウトリーチ支援、デジタル活用など、多面的なアプローチに注視した。

## 事業の概要

### 背景と課題について

豊田市では、一人暮らし高齢者の増加、若年層の社会的孤立、コロナ禍による人間関係の希薄化などを背景に、「孤独・ 孤立」への対応が喫緊の課題と認識されていた。

孤独・ 孤立は、精神的健康の悪化、生活困窮、社会的排除など多方面に影響を及ぼすため、包括的な支援が必要とされている。

### 支援体制の構築について

令和 4 年度より「孤独・ 孤立対策推進モデル事業」として、庁内で横断的なプロジェクトチームを設置した。

地域包括支援センター、福祉課、子育て支援課、教育委員会などが連携し、対象者の早期発見と支援につなげる体制を整備した。

### 主な取り組み内容について

アウトリーチ支援 地域支援員が訪問・ 声かけを実施し、潜在的孤立者の発見に努める。デジタル相談窓口

LINE やオンラインでの相談受付により、若年層へのアクセス向上を図る地域サロン・ 居場所づくり

地域住民が気軽に集える場を提供し 高齢者の社会参加促進を図り民間団体との連携 NPO・ ボランティア団体との協働通して多層化と継続性の確保をはかった。

### 成果として

支援対象者の把握件数が増加し、早期介入による生活改善事例が複数報告されていた。

地域住民の孤立に対する意識が高まり、見守り活動への参加者が増加した。

若年層からの LINE 相談件数が増加し、支援の裾野が広がっていた。

### 課題

支援対象者の把握には限界があり、潜在的孤立者へのアプローチが依然として難しい課題がある。地域支援員の人材確保と育成が継続的な課題である。

更に民間団体との連携において、情報共有や役割分担の明確化が求められる。

### 所 感

支援体制の継続性と地域住民の主体的な活動を促す仕組みづくりが重要であり、行政の役割と可能性、地域との協働の在り方、包括的な支援体制の実現に向けた取り組みが必要であると感じた。

視察研修先・静岡県藤枝市
視察研修項目・人財育成の取り組みについて
報告者・市川慎二
<p>静岡県藤枝市 (令和7年7月23日) 午前9時30分～10時45分</p> <p>藤枝市 人口 143910人 世帯数 60208世帯 面積 194,06km<sup>2</sup></p> <p>*静岡県のほぼ中央に位置し、北は南アルプスを望む赤石山系の森林地帯から南は大井川にまで広がります。「ほどよく都会、ほどよく田舎」でコンパクトシティを目指す市街地の賑わいと自然豊かな地域が調和する魅力的な街づくりを進めています。</p> <p>サッカーにおける歴史がおおよそ1世紀にわたり、その間に数々の全国大会で輝かしい成績を収め、サッカー界に多くの優秀な人材を輩出するなど、「サッカーのまち」として先駆的な役割を果たしてきました。また、市民のサッカーへの関心は非常に高く、競技者のみならず多くの人々が親しんでおり、ひとつのスポーツという枠を超えた市の文化として根付いています。</p> <p>この度の研修は、人財の育成で「日本一の職員づくり」に取り組んでいるとのことであります。</p> <p>目的は、人財の育成、採用活動、働き方改革等に関する事で、R2に県内初の専門部署「人財育成センター」を設置し、戦略的な人財育成を推進しております。</p> <p>人財育成の取り組みでは、職員が職員を育てる風土を進めるため、「職員寺小屋」を創設し、常用知識、仕事術、実務、更に藤枝市の注目事業について講義を行い、参加者も年間、400名以上で、活発な議論で研修に取り組まれているとのこと。</p> <p>また、ソフトバンクと連携したDX事業、若者に刺さるおもてなし研修、原田メゾット研修等新しい研修を企画し、前向き実施しております。</p> <p>人財の活躍では、「新公共経営(若手)プロジェクトチーム」を発足させ、年末には市長へ政策提言書を提出し、提言された施策は、実際の事業に反映される状況となっており、若手の励みと意識改革に繋がっていると思うところです。</p> <p>また、地方自治論、地域産業論、地方財政論、地域福祉論を市内大学で講師を努め、職員の市政に対する思いを直に学生に伝える活動を展開しております。</p> <p>キャリア支援では、入庁後5年～10年以降の職員に手上げ制による人事異動を実施し現在では、94名に拡大されたとのことであります。(なりたい自分の選択)</p> <p>取り組みの実施による効果では、職員の全国での登壇や寄稿を行い、活躍をしております。市政推進の原動力となり、これからも職員の活躍と成長の好循環へと繋がる事が確信したところであります。</p> <p>本市でも、市民との協働によるまちづくりが進められておりますが、実現に向け、目指す姿、効果の検証、そして兼業認可基準明確化、活動に対する輪の拡大等、地域貢献活動をしやすい環境整備を行い、職員が生き生きと働きがいをもって働ける職場環境を進めて行かなければならないと、強く感じたところであります。</p>

視察研修先・ 静岡県島田市

視察研修項目・ eスポーツを活用した介護予防事業について

報告者・ 市川慎二

島田市役所 (令和7年7月23日) 午後1時00分～2時30分

島田市 人口 95218 人 世帯数 39451 世帯 面積 315, 70 km<sup>2</sup>

議員定数 20人

島田市は、静岡県のほぼ中央で、大井川の中流域に位置し、市の中央部には一級河川の大井川が流れ市域を二分している。地勢的には、南北に長く、北部は山地が多く、南部は大井川によって形成された扇状地や牧之原台地からなっており、県内で5番目の広さを持つ市であります。交通基盤を見ると、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号バイパス及び東海道本線の東西軸、整備が進む国道473号バイパス、富士山静岡空港を利用した空路にも恵まれ、国内はもとより海外へ繋がる交通の結節点として注目されている。

この度の研修は、高齢者eスポーツ事業についてであります。

島田市では、福祉計画に基づき、これまで専用のトレーニングマシンによる「パワーリハビリ教室」、介護予防体操「しまトレ」の事業を実施し、一定の効果を上げてきておりました。一方で、高齢化率の上昇、要介護認定者数の増加とともに、認知症患者数が増加し、軽度認知障害を含む認知症高齢者数は、令和4年度には、全国で1000万人以上、高齢者の約3, 6人に1人となっており、島田市においても、要介護認定申請における最も多い原因疾患は認知症となっているため、高齢者の健康寿命の延伸を図る上では、認知症が必要不可欠となっている。

こうしたことから、リアルスポーツに比べて激しい身体活動を伴わないプレースタイルであるからこそ、高齢者にとっては取り組みやすい「eスポーツ」の普及を行い、高齢者の社会参加や、閉じこもり防止、参加者同士のコミュニケーションによる認知症のリスクの軽減により、高齢者の健康増進を更に推進する事業に取り組んでおります。

まずは、ルームの設置とゲーム機器を購入し、R6年度より「eスポーツルーム」を開設しました。事業ゲーム内容は、リズムゲーム、レーシングゲーム、格闘ゲーム、パズルゲーム、が1人でも遊ぶことができます。更に、eスポーツ経験のない高齢者を対象とした体験会の開催、講師指導の下のeスポーツ体験教室、eスポーツサポート寺小屋を段階的にステップアップできる事業に取り組んでおります。

ルーム以外での事業では、自治会や既存団体へ出向き、体験会の開催、多世代交流の機会を創出する市民交流大会(8月～2月)を開催し、高齢者の利用率が高まっているとのことです。

尚、事業を実施する上での注意事項ですが、風営法の法律に抵触する恐れがあるため、ゲーム機の取り扱いや事業内容や日程等に配慮することが必要です。また、ゲームソフトの権利は全てメーカーが所有しており、事業で使用する際には、年度ごとに許諾が必要であります。

終わりに、本市においても、今後、高齢者の健康寿命の延伸を図る上でも、認知症予防対策が必要不可欠となります。高齢者の社会参加や、閉じこもり防止、コミュニケーションによる認知症のリスクの軽減等ができる「eスポーツ」推進は重要であると考えますので、調査・研究を進めるとともに、課題整理等にも取り組んで参ります。

視察研修先・ 愛知県豊田市
視察研修項目・ 孤独・ 孤立対策推進事業について
報告者・ 市川慎二
<p>豊田市役所（令和7年7月24日）午前9時45分～11時30分</p> <p>豊田市 人口 415138人 面積 918,32㎢（県内1位の広さ、7割が中山間地）</p> <p>高齢化率 24,77% 認知症自立度Ⅱ以上人数 9242人</p> <p>精神保健福祉手帳所持者数 4795人 地域包括支援センター数 28ヶ所</p> <p>障害者相談支援事業所 24ヶ所 生活困窮者自立支援機関 6ヶ所</p> <p>*愛知県のほぼ中央に位置し、県内1位の広大な面積（愛知県全体の約18%）を持つまちで、全国有数製造品出荷額を誇る「クルマ（トヨタ）のまち」と知られ、世界をリードするものづくり中核都市としての顔を持つ一方、市域の7割を占める豊かな森林、市域を貫く矢作川、季節の野菜や果物を実らせる田園が広がり、恵み多き緑のまちとしての顔を併せ持っています。</p> <p>この度の研修は、孤独・ 孤立支援事業についてであります。</p> <p>孤独・ 孤立の増加、家族や地域といった支え合いの基盤の弱体化、地域課題の多様化・ 複雑化と言われる状況に対し、「お互いさま」と言えるコミュニティ、つまり「人や活動、地域などのつながり合い」を新たな形で取り戻すため「とよた宣言」を提唱し参加と実践を進めることとなりました。キーワードは、「ともに つくる」です。「市民の尊厳と自分らしさの実現」が全ての土台であることを、改めてお互いが認識し合わなければなりません。その上で、家族や地域、職場だけでなく、社会におけるあらゆる関係性を見つめ直す必要があります。これまで自然につくられた関係性の枠組みを外し、楽しみながら、ともに新たな関係性を作ることです。多様な価値観を認め合い、参加し、「つながり合う」ことにより自分らしい暮らしや地域のミライに更なる可能性が生まれます。そして市民やボランティア、活動団体といった地域の方々、事業者、社会福祉協議会、行政などあらゆる主体が、制度や分野を超えた「つながり合い」を育むことで、穏やかな暮らしを継続でき、仮に暮らしに困りごとが生じた場合でも、それぞれ行動し協力でき、そして支え合うことができるようになるということです。</p> <p>これらを進めるにあたっては、重層的支援体制整備事業の「地域づくり事業」でコミュニティソーシャルワーカーを主導に、各事業者の困りごと解消や事業改善などを図り、各事業の一体化目指すとともに、参加支援事業で結び付け、地域資源がひとつになるよう地域力の育成の意識改革を図るとのことです。</p> <p>（例えば、A型事業所での多世代交流食堂、お寺で行う居場所づくり、地域カフェの立ち上げ支援等）</p> <p>「わくわく事業」では住民が主体となって地域課題を解決。活動例～彼岸花の整備、親子の性教育講座、子ども居場所づくり、地域活性化事業、お助け隊活動等で地域団体が事業を実施した場合は、交付金の支援策があります。 終わりになりますが、総合的な課題を抱える世帯、支援に繋がらず地域に埋もれている世帯、福祉サービスの受給だけでは解決しない課題へのアプローチする機能は、従来の縦割りの体制では、対応が困難であります。既存の関係性の枠組みを外し、新たな関係性を早急に築いてことが必要であると強く感じたところであります。</p>

視察研修先・藤枝市議会

視察研修項目・人財育成の取り組みについて

報告者・自民党議員団翡翠会 前田孝雄

## 1 全般

藤枝市は令和7年1月1日現在、人口139,668人、恵庭市の約2倍の都市であり、サッカーの町として知られ、本市と友好都市の関係にある。市民の「幸せと活躍」でさらに元気なまちへをスローガンに、4K重点施策をとして「健康」「教育」「環境」「危機管理」進めている。中でも環境のごみ排出量少なさ全国1位であり、脱炭素モデル「エネルギー」の地産地消ネットワークを進めている。今回の視察で、日本一の職員づくりの推進～「志」のある人財育成～について、山梨人財育成センター長から情熱溢れる貴重なお話を聞くことが出来た。



<藤枝市人財育成室職員等>

## 2 視察に当たっての教訓事項

### (1) 良かった点 (印象的だった点)

- ① 現市政の基本指針：組織において重要なのは何より「人」
  - ・ 人財育成に相応しい前向き・情熱ある山梨センター長に接し、正に適材適所
  - ・ 真に選ばれる職場づくりの為には、職員が生き生き遣り甲斐を持って取り組む姿
- ② 入庁後10年～「職の公募制度」⇒職員の手上げ制による人事異動
  - ・ プロ野球のFA制度に似ているが、自分のやりたい仕事を自分で選べるのは、組織として大きな成果が有るものと考え。⇒「好きこそものの上手なれ」
- ③ 本事業により、働きがい実感率77%前後で推移、有休取得日数がR6は12.3日と過去最高、時間外勤務が15時間前後と下げ止まり傾向で、働き方改革の一助

### (2) 人財育成の課題と対策

- ① 若手職員のキャリア観の変化への対応 ⇒ 早期離職の防止
- ② 自在の変化 (デジタル化等) への対応 ⇒ デジタルに強い人財の育成
- ③ 専門職を中心とした優秀な人財の確保 ⇒ 事業のスクラップ&ビルド

## 3 本市に反映すべき事項

- (1) 入庁後10年～「職の公募制度」に向けて、概ね3年周期で3分野を経験窓口 ⇒ 管理 ⇒ 事業 市職員として基礎力を身に着ける。
- (2) 魅力ある職場を広報する。(市職員採用試験の増加)
  - ① 若手職員の有効活用 ⇒ 藤枝市は「人財育成通信」を配信、若手のPR
- (3) 地域貢献活動を行う兼業許可基準の明確化 ⇒ 市民との協働によるまちづくり推進
  - ① 目指す姿：職員が積極的に地域に出て、まちづくり活動をリード
  - ② 効果：市民との協働の推進、職員が活躍するフィールドの拡大
- (4) キャリア形成の支援・働きやすい職場環境 ⇒ 人財育成と人財の活躍の相乗効果

視察研修先・島田市議会

視察研修項目・高齢者 e スポーツ事業について

報告者・自民党議員団翡翠会 前田孝雄

### 1 全般

島田市は令和7年7月末現在、人口約94,176人、恵庭市の約1.34倍で、静岡県のおぼ中央に位置し、自然豊かなまちとして知られ、高齢者に対する健康寿命の増進の対策が取られ、静岡県は全国健康寿命第一位の中でも島田市は、上位の成績を継続している。

その中で、高齢者には馴染み辛い「eスポーツ」について先進的に取り組み成果を上げている点が印象深い。

年間「高齢者 e スポーツ事業」に係わる予算が、約350万円、費用対効果の面から研究の必要性を感じた。



<島田市包括ケア推進課の職員等>

### 2 視察に当たっての教訓事項

#### (1) 良かった点

- ① 高齢者の「eスポーツ」に取り組める環境の整備及びそれに至る分析の確行
  - ・ 島田市の高齢化率は、32.50%（全国平均28.4%）高く、65歳以上の要介護・要支援認定者数が令和5年度に比べ134人増加、認定率15.22%の現状
  - ・ 要介護認定申請の最も多い原因は、認知症であり、認知症予防が必要不可欠
- ② 高齢者「eスポーツ事業」の概要説明後、「eスポーツルーム」を刺殺させて頂き、現場の状況、体験できたことでイメージアップが出来た。
  - ・ ゲームの種類・使用ソフト（太鼓の達人等）及びeスポーツ体験会

#### (2) eスポーツを通して高齢者の潜在する課題に対する取り組み

- ① eスポーツルームは、高齢者の社会参加や閉じこもりへの防止策として有効
- ② 参加者同士のコミュニケーションによる認知症リスクの軽減及び高齢者の健康増進

### 3 本市に反映すべき事項

(1) eスポーツとは、電子機器を用いて行う娯楽、協議、スポーツ全般を指す言葉であり広く市民に周知すると共に高齢者の健康寿命の増進に効果的であることの意識改革

- ① eスポーツは、若者には広がりつつあるが、高齢者に対する普及、道議付け
- ② 島田市の高齢者 e スポーツ事業の成果について、普及教育の実施

(2) 高齢者の潜在する課題に取り組むeスポーツ環境の整備の必要性について検討

- ① 年間事業費が約350万円、一室を用意して電子機材・ソフトの初期費用はそれほど高くないので、市内憩の家等に環境整備することも一案と考える。
- ② 気軽に参加できる場所の提供することで、参加者同士のコミュニケーションが図れ認知症リスクを軽減できることは非常に良い施策であると考えている。

視察研修先・豊田市議会

視察研修項目・「孤独・孤立支援事業」について

報告者・自民党議員団翡翠会 前田孝雄

### 1 全般

豊田市は、令和7年7月1日現在、人口414,828人の中核都市であり、環境モデル都市、SDGs未来都市に指定されている。自動車メーカーであるトヨタ自動車の企業城下町であり、市名は同社に因む。一方で、市の約7割が自然豊かな山村地帯が広がっていて、～いなか暮らしのすすめ@とよた～をスローガンに、各種支援制度やサポート、仕事や環境面などひっくるめて豊田市がいなか暮らしにピッタリな理由やいなか暮らしのノウハウを紹介している。その中で先進的取り組みである「孤独・孤立支援事業」について貴重な話を伺う事が出来た。



<豊田市の担当職員等>

### 2 視察に当たっての教訓事項（良かった点）

#### （1）孤独・孤立の【予防】に関する取り組み

- ① ボードゲーム「コドクエ」を活用した、孤独・孤立問題の周知啓発
  - ・ 小・中学校の出前講座やコドクエを活用したイベントを通じて広く市民に発信
- ② つながりづくりの活動イベント「空想ファクトリー」の発信
  - ・ 参加者や何か活動したいと思っている市民（企業・団体）の交流、連携の促進
- ③ メタバース空間を活用した相談支援の実施
  - ・ 悩み事を抱える市民が匿名で相談等できるイベントをメタバース空間を活用開催
- ④ 分かりやすい悩みごと相談先チラシの配布
  - ・ 支援の声を求めやすい環境整備のために、市の訪問事業等に合わせて実施

#### （2）地域課題に対する対応等

- ① 地域会議（中学校区）エリアにおいて、地域と行政の役割分担により共働で取り組む
- ② 地域会議が地域課題を集約し、作成した提言に基づく事業と支所が提案する事業。

### 3 本市に反映すべき事項

#### （1）誰でも起こり得る「孤独」「孤立」の概念を周知（20代～50代が他世代より多い）

- ① 「孤独」とは、主観的概念であり、「ひとりぼっち」と感じている精神状態
- ② 「孤立」とは、客観的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態

#### （2）重層的支援体制整備事業の五つの事業の中から本市に合った事業の取り込み

- ① 包括的相談支援事業：自所属対象でない相談も適切に聞き取り、支援機関につなぐ
- ② アウトリーチ等を通じた継続的支援事業：同意のない対象者に対し、支援会議を経て情報収集や自宅訪問等を実施し、信頼関係を構築し支援同意を得る。
- ③ 多機関協働事業：多機関の適切な連携により、個別支援の実施
- ④ 参加支援事業：地域支援につなぎ、社会参加の促進及び既存の支援が無い場合、「とよた多世代参加支援プロジェクト」に依頼、オーダーメイドの支援を創出する。
- ⑤ 地域づくり事業：世代や属性を超えた住民同士の多様な場の整備・コーディネート

<p>視察研修先・静岡県藤枝市</p>
<p>視察研修項目・日本一の職員づくりの推進～「志」のある人材の育成について</p>
<p>報告者・石井美季</p>
<p>恵庭市の友好都市藤枝に初めて訪れました。</p> <p>藤枝駅の周辺はアカデミックな施設が多く集まっており産官学連携センターが入っている複合施設 Bivi はさまざまな経緯で今日に至っていると推察しますが私にとっては大変魅力的に映りました。</p> <p>友好都市なのでまち全体からたくさんの学びをもっと時間をかけてしたいところでしたが、今回は人づくりにスポットを当てて視察させていただきました。</p> <p>組織において重要なのは何より「人」という基本指針のもとで現市政を行っているとのこと。人材はあるものではなくつくるものという点が非常に特徴的です。</p> <p>藤枝市が目指す人材像は「スペシャル・ジェネラリスト」総合力と専門力を高いレベルで伸ばしていくというものです。入庁後 10 年間は 3 つの分野を経験して基礎力を身に着け、その後は手上げ制による人事で専門性を高めていくキャリアプラン。柔軟な発想力をもって職員が職員を育てる取り組みは世代間の考え方の格差などをポジティブにとらえるもので、働きやすさとキャリアの形成を同時に行い人材の育成と活躍の相乗効果で目の輝きがどんどん変わってくるというものでした。</p> <p>目の輝きという人間らしい観点でみるのが意外であり、また、説得力あると感じました。市民から見える街の魅力は中の人目の輝きから受け取り、郷土で暮らす幸せに自信を持つことができるだろうと共感しました。</p> <p>女性活躍推進会議のフジェンヌは女性目線から、誰もが働きやすい職場の実現に向けた調査研究提言を行う組織で、キャリアサポーター制度や産休育休相談会の実施のほか、「フジェンヌ×男性職員合同会議」を行うなど女性と男性の相互理解を深める取り組みは、参考になると思いました。</p>

<p>視察研修先 静岡県島田市</p>
<p>視察研修項目・島田市 e スポーツ教室事業について</p>
<p>報告者・石井美季</p>
<p>川根茶と文金高島田などの髷髪で有名な島田市は、帯の歴史が重要な東海道の宿場町です。島田市の伝統の帯と郷土工芸品の浜松注染そめを使った帯シャツをまとった二人の職員のかたが出迎えてくださいました。暑い夏のオフィスでホッと落ち着く和風の色合いにこのまちの優しさを垣間見ました。</p> <p>高齢者の社会参加や生きがいがいづくりによる閉じこもり防止、介護予防、認知症予防を推進して健康寿命の延伸を図る、というこの e スポーツ事業は大変参考になるところがたくさんありました。</p> <p>リアルスポーツを以前よりたしなみ体力や筋力をそこそこ維持している高齢者のかたもいる一方でそうではない方々に取り組みやすい e スポーツ。要介護認定申請において最も多い原因疾患である認知症の予防にはとくに効果が高いということでした。家に機材があってもなくても気軽に組み組めて、コミュニケーションを図り、また生きがいがいづくりにも寄与するこれらの利点を生かすために高齢者のかたが通いやすい拠点のあり方、興味を持続する事業計画、人間関係をゆるく平和に作る工夫が重要と思いました。実際に e スポーツルームで体験させていただき、挑戦する意欲や誰かに話したくなる心の動きを体感することができました。</p>

視察研修先・愛知県豊田市
視察研修項目・孤独孤立対策推進事業について
報告者・石井美季
<p>豊田市といえば TOYOTA。ものづくり、特にクルマで有名です。世界をリードする産業のまちは人のつながりを大切にするまちでした。</p> <p>孤独とは主観的概念で独りぼっちと感じている精神状態、孤立とは客観的概念で社会とのつながりや助けがないあるいは少ない状態という定義から始まりました。</p> <p>単身世帯や単身高齢者世帯だけでなく社会参加の機会が多い 20 代～50 代が他の世代よりも孤独を感じている調査結果に着目し誰にでも起こりうる問題としてとらえ、孤独孤立の原因となる悩み事や困りごとが深刻化複雑化する前に対応することが必要だということでこの事業が進められています。特に当事者がつながりを実感できる地域づくりに力を入れているのが大変参考になると思いました。</p> <p>つながる Credo には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会全体で対応する</li> <li>・孤独・孤立を生まない</li> <li>・声を上げやすい社会づくり</li> <li>・つながりあう地域づくり</li> </ul> <p>についての方針が明記されており、市職員のかたが職員証のケースに入れて常時携帯し、地域社会に浸透するように率先して体現しています。</p> <p>市民への発信や周知はボードゲーム「コドクエ」制作と活用やつながりづくりのイベント「空想ファクトリー」メタバース空間の活用、相談先チラシ配布など、様々な手法で情報の受け取り方が異なるひとびとへ届く工夫がされています。情報が正しくひとりひとりの市民の元へ届くことが、孤独・孤立を防ぐための大きなポイントであり、それを大切にしていることは大変参考になると思いました。</p> <p>重層的支援体制も充実しており様々な事業にリンクし、相乗効果を生み出していますが、基本はやはり、より多くの市民に声をかける、伝える、聴くということに集約されると私はとらえています。人とのかかわりかた、距離の取り方を難しいとかんがえると孤立孤独へ向かって行ってしまうと思います。本市にふさわしい適切な社会づくりについてさらに研究を進めていきたいと思いました。</p>

視察研修先・藤枝市
視察研修項目・「人財育成の取り組みについて」
報告者・吉永 孝之
<p>視察の目的</p> <p>本視察は、自治体職員の人財育成に関する先進的な取り組みを学ぶことを目的とし、静岡県藤枝市人財育成センターにて、センター長・山梨秀樹氏による講話を拝聴した。特に、職員のキャリア形成、ジョブローテーションの意義、行政における人財の在り方について、実体験に基づく示唆に富んだ内容であった。</p> <p>講話の要旨</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>希望部署への配属とジョブローテーションの意義 <ul style="list-style-type: none"> <li>入庁後すぐに希望部署に配属されるとは限らないが、異動を通じて多様な業務経験を積むことができる。</li> <li>山梨氏自身も、土木、税務、医療行政と異なる分野を経験し、結果として知識と人脈が広がった。</li> </ul> </li> <li>行政の全体像を把握する重要性 <ul style="list-style-type: none"> <li>地方行政では、住民の複合的な要請に迅速かつ的確に対応する力が求められる。</li> <li>若いうちに多様な部署を経験することで、行政全体の構造や連携の仕組みを理解できるようになる。</li> <li>将来的に管理職や経営層として活躍するための「基盤づくり」となる。</li> </ul> </li> <li>キャリア形成と行政の多様性 <ul style="list-style-type: none"> <li>民間では転職が一般化しているが、行政の世界でも多様な職務が存在し、キャリアを磨く場は豊富にある。</li> <li>希望部署に早期に配属されなくても、他分野での経験が広報や企画などの業務に活かされる。</li> </ul> </li> <li>「体幹」を身に付けるという考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>行政職員としての「体幹」とは、幅広い知識と経験に裏打ちされた対応力・判断力のこと。</li> <li>住民対応では、担当外の質問にも即座に理解し、適切な部署につなげる力が求められる。</li> <li>真摯に業務に向き合い、異動を重ねることで自信と実力が培われる。</li> </ul> </li> </ol> <p>所感・考察</p> <p>山梨氏の講話は、行政職員としてのキャリア形成に対する視野を広げるものであり、特に若手職員にとっては「希望部署に行けないこと＝不遇」ではなく、「経験の蓄積＝将来への投資」であるという考え方が印象的であった。</p> <p>ジョブローテーションの制度的意義を再認識するとともに、行政の全体像を把握することが、住民サービスの質向上に直結するという実践的な視点は、今後の人財育成施策においても重要な示唆となる。</p> <p>また、「行政の体幹を鍛える」という表現は、単なる知識習得ではなく、実務を通じた総合力の養成を意味しており、職員一人ひとりが自らの成長を意識しながら業務に取り組む姿勢の醸成が求められる。</p>

結び

本視察を通じて、行政職員としてのキャリア形成における多様な可能性と、異動・経験の積み重ねがもたらす価値を深く理解することができた。今後、市民の満足度向上のために様々な分野において、山梨氏の講話内容を積極的に活かして魅力ある街づくりを目指したい。

視察研修先・島田市
視察研修項目・「高齢者 e スポーツ事業について」
報告者・吉永 孝之
<p>1. 目的</p> <p>高齢者の健康増進、社会参加の促進、デジタルデバイドの解消を目的として、島田市では令和5年度より「高齢者 e スポーツ事業」を開始していた。本事業は、e スポーツを通じて高齢者の身体的・認知的機能の維持向上を図るとともに、世代間交流の機会を創出することを目指している。</p> <p>2. 島田市の実施している内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- e スポーツ体験会の開催（月 1 回）</li> <li>- ゲームタイトル：ボウリング、テニス、リズムゲームなど身体動作を伴うもの</li> <li>- インストラクターによる操作指導と安全管理</li> <li>- 定期的な交流イベント</li> <li>- 高校生との合同チーム戦</li> <li>- 地域住民との観戦会・応援企画</li> <li>- 健康チェックとの連携</li> <li>- 体験前後の血圧・脈拍測定</li> <li>- 認知機能テスト（簡易版）</li> <li>- デジタルリテラシー講座</li> <li>- ゲーム機器の操作方法</li> <li>- オンラインマナーと安全な利用法</li> </ul> <p>3. 成果と効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 参加者の声</li> <li>- 「孫と同じゲームができて嬉しい」「外出のきっかけになった」</li> <li>- 「手足を動かすことで運動不足が解消された」</li> <li>- 定量的成果</li> <li>- 認知機能テストの改善傾向（参加者に向上が見られているようである。）</li> <li>- 地域への波及効果</li> <li>- 地域メディアでの紹介により関心が拡大</li> <li>- 継続的なモチベーション維持</li> <li>- → スコアランキングや表彰制度の導入を検討</li> </ul>

#### 4. 課題と改善点

- 機器操作への不安
- 初回参加者には、操作に戸惑いを感じた
- → 操作補助員の増員とマニュアルの簡素化を実施していた。
- 参加者層の偏り
- 男性参加者が多く、女性の参加促進が課題
- → 女性向けタイトルの導入と広報の工夫

#### 5. 今後の展望

- 常設型 e スポーツスペースの設置
- 地域交流センター内に常設機器を設置し、自由利用を促進
- 医療・福祉との連携強化
- リハビリ支援としての活用可能性を検討
- 世代間交流のさらなる推進
- 地元学校との定期交流イベントの拡充
- 地域全体への普及
- 高齢者だけでなく障がい者や子育て世代への展開も視野に

#### 6. まとめ

本事業は、高齢者の社会参加と健康維持を目的とした新たな取り組みとして、一定の成果を上げていた。今後は、より多様な参加者のニーズに応え、持続可能な事業として定着させるための体制整備が求められていた。島田市は、地域のつながりを育む「e スポーツ福祉モデル」の構築を目指し、引き続き取り組みを進めている。

視察研修先・豊田市		
視察研修項目・孤独・孤立支援事業の取り組み		
報告者・吉永 孝之		
視察の目的		
<p>本視察は、現代社会において深刻化する「孤独・孤立」問題に対し、自治体がどのような支援体制を構築しているかを学ぶことを目的とし、愛知県豊田市の先進的な取り組みを調査した。特に、地域連携、アウトリーチ支援、デジタル活用など、多面的なアプローチに注目した。</p>		
事業の概要		
1. 背景と課題認識		
<ul style="list-style-type: none"> <li>豊田市では、単身高齢者の増加、若年層の社会的孤立、コロナ禍による人間関係の希薄化などを背景に、「孤独・孤立」への対応が喫緊の課題と認識されていた。</li> <li>孤独・孤立は、精神的健康の悪化、生活困窮、社会的排除など多方面に影響を及ぼすため、包括的な支援が必要とされていた。</li> </ul>		
2. 支援体制の構築		
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度より「孤独・孤立対策推進モデル事業」として、庁内横断的なプロジェクトチームを設置。</li> <li>地域包括支援センター、福祉課、子育て支援課、教育委員会などが連携し、対象者の早期発見と支援につなげる体制を整備。</li> </ul>		
3. 主な取り組み内容		
施策名	内容	特徴
アウトリーチ支援	地域支援員が訪問・声かけを実施	潜在的孤立者の発見
デジタル相談窓口	LINE やオンラインでの相談受付	若年層へのアクセス向上
地域サロン・居場所づくり	地域住民が気軽に集える場を提供	高齢者の社会参加促進
民間団体との連携	NPO・ボランティア団体との協働	多層化と継続性の確保
成果と課題		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象者の把握件数が増加し、早期介入による生活改善事例が複数報告されていた。</li> <li>地域住民の孤立に対する意識が高まり、見守り活動への参加者が増加。</li> <li>若年層からの LINE 相談件数が増加し、支援の裾野が広がっていた。</li> </ul>		
課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象者の把握には限界があり、潜在的孤立者へのアプローチが依然として難しい。</li> <li>地域支援員の人材確保と育成が継続的な課題とのことである。</li> <li>民間団体との連携において、情報共有や役割分担の明確化が求められていた。</li> </ul>		

#### 所感・考察

豊田市の取り組みは、孤独・孤立という抽象的かつ個別性の高い課題に対し、行政が積極的に関与し、地域と連携して支援体制を構築している点で非常に先進的であると感じた。特に、アウトリーチ型支援やデジタル相談窓口の導入は、従来の福祉施策では届きにくかった層へのアプローチを可能にしており、他自治体にとっても参考となるモデルであった。

今後は、支援の継続性と地域住民の主体的な関与を促す仕組みづくりが重要であり、行政と民間が協働する「地域共生社会」の実現に向けた取り組みとして、さらなる発展が期待される。

#### 結び

本視察を通じて、孤独・孤立支援における行政の役割と可能性を再認識するとともに、地域との連携による包括的な支援体制の重要性を学ぶことができた。今後の施策立案や地域福祉の推進において、豊田市の事例を積極的に活用していきたい。